



全国で活躍する緑の少年団が大集合 第18回 緑の少年団全国大会

緑の少年団全国大会は、全国各地で緑を守り育てる活動をしている緑の少年団が一堂に会し
自然体験学習や少年団相互の交流を深めることを目的に
平成二年から毎年開催しています。
今年も積極的な交流が行われ
子どもたちにとって有意義な大会となりました。



上：約 700 人が参加
左：大会を締めくくる体験活動発表会

子ども同士の交流が 未来の美しい森林をつくる

一八回目の今年は「つなげよう富士の高嶺に緑の輪」を大会テーマに、八月一日(水)から三日(金)までの二泊三日、富士山のふもと静岡県で開催されました。

大会初日の記念式典は、会場の三島市民文化館で行われ、全国から緑の少年団の代表約七〇〇人が集まり、子どもたちの堂々とした入場行進で開幕しました。

石川嘉延静岡県知事らの歓迎のあいさつに続き、来賓の辻健治林野庁長官が「緑を守り育てる皆さんの取組に勇気づけられています。これからも多くの仲間たちと一緒に美しい森林をつくっていきましょう」と励ましの言葉をかけました。

表彰式では、地元の静岡県清水町水と緑の少年団他四団体がみどりの奨励賞を、井川中学みどりの少年団が大会テーマ最優秀賞をそれぞれ受賞しました。

二日目は、朝からあいにくの雨模様。そこで国立中央青少年交流の家での活動となりました。さまざまなイベントが行われるなかでも、富士山ネイチャートークでは、晴天で行われるはずだった活動内容をスクリーンで紹介するとともに、富士山の自然や地球環境と私たちとの関わりについて、×クイズ形式で楽しく学ぶことができ、参加した子どもたち



晴天の中で、富士山ハイキング

は一樣におおはしゃぎでした。

午後には、天候も回復し、富士山五合目でのハイキングを実施。直に富士山の自然に触れる機会とあつて、子どもたちは富士の自然に興味津々の様子で、雄大な富士山の魅力を存分に感じた様子でした。

大会最終日は、体験活動発表会が開催され、この三日間で学んだことや感じたことなどを元気よく発表しましたが、帰りの時間が近づくとつれお互いに別れを惜しむ様子も見られました。

この大会での多くの得難い体験が、全国約四千団体、約三三万人の緑の少年団による美しい森林づくりへ向けた取り組みにつながることでしょう。